



2022  
No.001



社会福祉法人ゴールデンハープ広報

# ねいろ

## 理事長就任の挨拶



去る令和4年2月21日に開催されました理事会におきまして、法人設立時理事長森章の後を継ぎ、理事長に就任いたしました。森章前理事長は特定非営利活動法人設立時から理事長としての職責を長きにわたって全うされてきましたことに深く感謝申し上げる次第です。このたびは、このような大役を仰せつかり、大変光栄に思うとともに、身の引き締まる思いがしております。

当法人は、「人は誰もがかけがえのない価値をもつ存在であること」を土台にして、ひとり一人が生き生きと輝いて生きることが出来るように、個々人の思いや希望に合わせた在宅サービスを図り、提供していくことを目指すことを基本理念としており、これまでと同様に最も支援を必要としている人(最重度の障害者・生活困窮者・児童など)が大切な存在であるとして、奉仕するべく職員共々一丸となって実践していこうと思っております。今後とも皆様からの変わらぬご支援をいただきますように節にお願い申し上げます。

令和4年2月24日

社会福祉法人ゴールデンハーブ  
理事長 本田 隆光

### 役員名簿

|     |        |
|-----|--------|
| 理事長 | 本田 隆光  |
| 理事  | 森 章    |
| //  | 佐久間 一枝 |
| //  | 中崎 とし江 |
| //  | 園部 勝   |
| //  | 星 美枝子  |
| 監事  | 今野 久寿  |
| //  | 猪狩 堅一  |
| 評議員 | 石山 伯夫  |
| //  | 川村 博   |
| //  | 高橋 直也  |
| //  | 村田 清   |
| //  | 水井 春枝  |
| //  | 岑 正幸   |
| //  | 伊東 久美子 |
| //  | 鈴木 英司  |

## 「八代さんご苦労様でした。そしてありがとう」



法人創設から副理事長として邁進してきた八代純一さんが去る令和3年11月3日に亡くなりました。2年にわたる闘病生活中でもいつもゴールデンハーブのことに気にかけていただきました。感謝です。

以下、弔辞です。

あなたと本格的に障害ある人たちの地域福祉の実践をするようになったのは、23年以上前になり、それまで勤めていた国立療養所翠ヶ丘病院（現在のいわき病院）を50歳前に退職されてからでした。当時私が勤務していた社会福祉法人いわき福音協会「はまゆう通勤寮」のパート職として再就職され地域生活支援の実戦が始まりました。

それはレスパイトサービスと言われていた制度にないものを有償ボランティアで支えるというものです。入所施設サービスではない在宅での生活を支える目的で入浴サービスや、一時預かりなどを平材木町の一軒家「『風の家』と称しました。」を借りて始めたのが現在のゴールデンハーブ前史です。

その後支援費制度が始まるのに伴い特定非営利活動法人として立ち上げることができ、明治団地の一軒家を借りてホームヘルプサービス、児童デイサービス、生活介護・就労支援事業所を始めることができました。さらに、在宅の人のためのグループホームを開始してたくさんの困難に見舞われながらも事業を継続してきました。

しかし、その後平成23年の東日本大震災での原発事故による放射の汚染に曝されながらも職員集団の踏ん張りで事業を維持できたのもつかの間今のフルクテンがある前のビルで行っていた事業が解体立ち退きを余儀なくされ、路頭に迷う最大の危機に見舞われましたが、あなたの英断で現在の鹿島町御代の地に新築して移転することができたことはゴールデンハーブにとって大きな幸いでした。このことは他の人にはできなかったことです。

重症心身障害のある方々のグループホームほか多機能型の安心センター「フレーデン」を始めることができました。ここもあなたの所有していた土地があったからこそ具体的に実践することができたのです。

常にあなたの温かい支え無しには今日のゴールデンハーブは存在しません。ここにこれまでの動きに利用者、職員一同深く感謝しております。

これまで本当にありがとうございました。天国にて安らかにお過ごし下さい。

## ジェントル・ティーチング



令和3年11月14日、福島県運営適正化委員会委員長の村田清先生をお招きしジョン・マクギー氏提言の「ジェントル・ティーチング」について講演いただきました。準備期間中は新型コロナウイルスの感染拡大により、どのような形で開催できるのか委員会の中でも様々な方法を検討していましたが、開催時には感染状況も落ち着いてきたため、文化センターにて無事に開催することができました。それでも、やはり感染防止のため、前回参加していない職員に限定したため、全員で聞けなかったことは残念でした。当日は、委員含め35名の参加、この2年で随分職員が増えたことを実感しました。

村田先生のお話は大変温かく、ジェントル・ティーチングの基本的な姿勢、4つの柱になる「安心と安全」「愛されること」「愛すること」「人間的な関わりをもつこと」をもとに実践し、生の文化を確実なものにしていくことの大切さを教えていただきました。日々のケアの中では、ハプニングがおきたり思うような展開にならないことがありますが、目の前の一人の人間と向き合い、お互いを尊重しあい温かい関係を一つ一つ築けたらと思います。

人材育成委員会

## オムソルグ

### 相談支援

地域にお住まいの障がいをお持ちのお子さん、大人の方、また、これから地域で暮らしたいと思っている方からの相談をお聞きしながら、サービス等利用計画の作成を通して、障害福祉サービス等の利用や望む生活を送るために必要なお手伝いをしています。

その他に、今年度より双葉8町村から「中核市障害者等相談支援事業」を受託しました。いわき市では、ゴールデンハープを含む2事業所が令和3年4月1日委託を受け活動しています。事業の目的として、東日本大震災と原発事故の影響により、双葉郡から県内中核市へ避難されている方で双葉郡に住所を有する障害児者、または家族等に対して、障害福祉サービス等が円滑に提供できる体制整備を図ることとされています。支援をするにあたり、地域資源の活用や地域とのつながりを重視し、避難していることによる生活の生きづらさに共感しながら、障がいのある人一人ひとりのニーズに寄り添ったより良い支援ができるよう努めています。

## ボルゲン

### 居宅介護支援（介護保険）

令和4年4月より上荒川へ事務所を引っ越しました。在宅で生活されている高齢者の方や、障害福祉サービスと介護保険サービスを併用される方などへ、スムーズなサービス利用と住み慣れた地域での生活を継続できるようなお手伝いをしています。コロナ禍において地域や友人との関わりが希薄になりがちですが、引きこもりや社会的に孤立しないように声をかけたり、感染対策をしたうえで顔を合わせて会話をするなど試行錯誤しているところです。ボルゲンと同じ建物に入っている「いつだれkitchen」での認知症カフェや食堂での活動にも参加し、地域の皆さんや他の専門職との交流、意見交換等行うことで、高齢になっても障がいがあっても住み続けられる地域づくりを目指した取り組みも行っていきます。





## アルケン 生活介護・日中一時支援

コロナ禍で何かと制限が多い中、利用者の皆さんは毎日元気に通われ、笑顔で活動や行事に参加する姿を見て、職員一同もうれしく思うとともに、そして元気づけられております。

今後も感染予防対策をしながら楽しんで過ごしていただけるよう支援してまいります。



## バザー大盛況！

令和3年11月4日に、法人内で、アルケン利用者作品の展示販売バザーを開きました。

手描きのイラスト入りポーチやトートバッグ、ハンディモップ、新聞エコバッグ等がずらりと並び、利用者の皆さんが交代でレジを担当しました。職員や利用者の皆さんが、個性豊かな作品を手に取り、こぞって買い求めました。笑顔いっぱいの大盛況のバザーとなりました。



## アルケンⅡ 放課後等デイサービス

アルケンⅡでは、強度行動障害のあるお子さんも、身体介助が必要なお子さんも、皆さんが楽しく関わられるように、安全に配慮しながら一緒に活動しています。元気いっぱいの児童の皆さんの日々の成長に、職員も学ばせて頂いています。コロナ禍の制限がある中でも、毎月の行事や集団活動・遊びを通して、皆さんの「楽しい」「嬉しい」「やりたい」「できた！」を応援していきたいと思っております。



サツマイモ苗植え



お散歩



夏祭りお買い物ごっこ



## キルデン 共同生活援助事業所

今年度は昨年度同様、新型コロナ感染拡大により入居者の方には不自由な思いをさせてしまった一年でした。

皆さんで顔を合わせて食事をする楽しさを抑え少人数での食事、マスク着用での会話、買い物や外出等へ行きたい気持ちを抑えてのステイホーム。誕生会や誕生日の入居者の方のリクエストに応えての食事など、ささやかな楽しみを共有することが精一杯のイベントでした。日中活動の場での感染対策から始まり、グループホームに帰宅後も感染予防。

皆さんで協力し、しっかり感染対策をしたことで感染者を出さずに現在を迎えております。

新型コロナ感染拡大にともなって、新たな生活様式への取り組みなど様々な変化がありましたが、入居者の皆さんは動揺することなく、落ち着いた生活を送ることができたように思います。その中で、入居者の皆さんの今まで気づかなかった部分や、ご自分でできることが増えたことなどの発見もあり、日々驚くことが多かったように思います。

また、フレーデンは開所2年目、入居者の皆さんがそれぞれのペースで、笑顔で生活を送っている姿を見ることがスタッフ全員の活力になっています。

## ちいろば 居宅介護事業所



今年度はサービス提供責任者が1名増員となり、新たな体制でスタートしました。

新型コロナ感染予防対策として、いわき市より「感染拡大防止一斉行動」の指示が出た際には、利用者の皆さんにはサービス利用時間の時短や、余暇活動の自粛などのご協力をお願いせざるを得ない状況となりました。この場をお借りして感謝申し上げます。今後も手洗いや手指消毒及びマスクの着用を徹底し、感染防止に努めてまいります。

## フルクテン



就労移行支援

フルクテン移行支援は『働き続ける』をコンセプトとして活動しています。主に作業訓練とスキルアップ勉強会を実施しており、作業訓練においては日々目標と振り返りを行い、課題の克服や対応方法を明確にして企業マッチングを目指します。スキルアップ勉強会では基本的なビジネスマナー等を学ぶと共に、特に業務を継続的に改善していく方法であるPDCAサイクルを体感する実習に力を入れています。



就労継続支援B型

毎日、おいしいパンをお客様へお届け出来る様に、現在利用者23名で製造・販売を行っています。季節ごとに新しいパンを販売出来る様に職員や利用者の皆さんとアイデアを出しながら新商品の開発もしています。

そして、何よりも大事にしているのは、利用者の皆さんが毎日フルクテン来て気持ちよく作業ができることです。その中でやりがいを感じてもらい、自分は唯一無二の存在なんだという事ことを感じてもらえるように職員一同、日々支援を行っています。



### あったかパン工房フルクテン

就労時間 9:00-14:00

店舗営業時間 10:00-14:30  
(売切れ次第終了)

〒970-8026 いわき市平字菱川町5-8  
Tel 0246-21-2741 Fax 0246-38-3676  
Mail chiiroba@aroma.ocn.ne.jp

Googleマップはこちら



## 事業所現場実習の目的



令和3年10月に、法人職員が各事業所の支援業務に携わる事業所現場実習を法人人材育成委員会で企画し実施いたしました。

実習の目的としては、『職員の資質向上』と『緊急時（災害時等）における協力体制の強化』です。他事業所の業務を実際に体感することで、各事業所のサービス提供と支援のプロセスを学び、職員同士が繋がる場としても良い機会であったと考えています。また、有事（災害・感染症発生等）の際に利用者の皆さんが困ることのないよう、法人職員全体でサポートし合える体制を目指しています。

今回の実習をよく振り返り、職員同士が知恵を出し合いながら今後の研修や実習企画に反映させていきたいと思えます。

人材育成委員会

## 法人現場実習の体験談

### ①ちいるばの研修を終えて

令和3年10月27日28日と2日間にわたって、ちいるばで研修を受けました。

利用者のお宅に訪問した際、初対面の私をみんな笑顔で迎えてくれました。

それは、これまで築き上げてきたゴールデンハープとの信頼関係があったからこそであり、誠意を持って対応してきた証なのではないかと感じました。

どんなに重い障害を持っていたとしても、全員「自分はこうしたい」という意思を持っていました。それを丁寧に聞きながら、一つ一つ対応している姿を見て深い感銘を受けました。

2日間で、多くの貴重な体験ができました。心に残る、大変勉強になった研修でした。

フルクテン 鈴木

### ②法人事業所実習体験談

令和3年10月28日と29日の両日、法人の放課後等デイサービス「アルケンII」の実習に参加しました。

平日の午後の流れは、各支援学校へ向かい見守り誘導しながら乗車、アルケンIIへ到着後検温と消毒、持ち物をロッカーに入れて連絡帳を渡し、トイレと手洗いうがいの支援、お集まりとおやつ、集団活動の後、保護者のお迎えが来るまでフリータイムとなります。

利用者の皆さんは明るく元気に過ごされており、集団活動やフリータイムを楽しみ、使った道具やコップ、空き袋などの片付けを手伝う方もいました。

今回の実習に参加して、家庭や学校との連携や、利用者の皆さんの成長や個々のニーズに気付き、可能性を引き出す支援を提供することが求められていると感じました。

キルデン 杉本

## 感染症対策

日頃より利用者の皆さまをはじめ、ご家族の皆さまにも感染症対策にご協力いただきありがとうございます。コロナウイルスの変異株の報告もされており、まだまだ感染症対策は引き続き重要であり、それぞれの場所（事業所）において対策の徹底を図る必要があります。事業所内では、対策に必要なことを朝の会で唱和したり、ポスターを見て確認したりしています。

このような行動をとることで、感染の再拡大の可能性に備え引き続き最大限（できる限り）の警戒（対策）をしています。皆さまの健康と安全を保つことができるようにしてまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

感染症対策委員会

## AOY(アドボカシー・オブ・ザ・イヤー)に表彰されました

一般社団法人全国権利擁護支援ネットワークが開催している全国フォーラムにて、権利擁護支援の素晴らしい実践を行っている団体、個人に贈られるAOY(アドボカシー・オブ・ザ・イヤー)に本田理事長が選ばれました。

権利擁護とは、「ふつう(地域生活)」、「自分らしく(自律生活)」、「みんなと暮らす(社会生活)」という当たり前の生活を守ることです。誰も高齢者となることは避けられませんし、それ以外にも家族や知人とのトラブル、病気などによってある日突然困った状態になるかもしれません。そのような状況になった時に、その原因や対処方法を一緒に考え、必要に応じて専門家の力を借りることができるようにすることが、「権利擁護支援」です。一人暮らしのお年寄りが頻繁な訪問販売や悪質商法の被害を受けている、親が亡くなった後で障がいのある子の財産管理を誰に頼めばよいのか、成年後見制度の申立を考えているので内容を詳しく教えてほしい、物忘れがあり、金銭・財産管理を自分で行うことが難しくなってきたので何かいい方法はないか等、権利擁護の問題は意外にも私たちの身近に多くあります。法人で働く一人ひとりが権利擁護の視点を忘れず、皆さんの生活を支えていけるように取り組んでまいります。

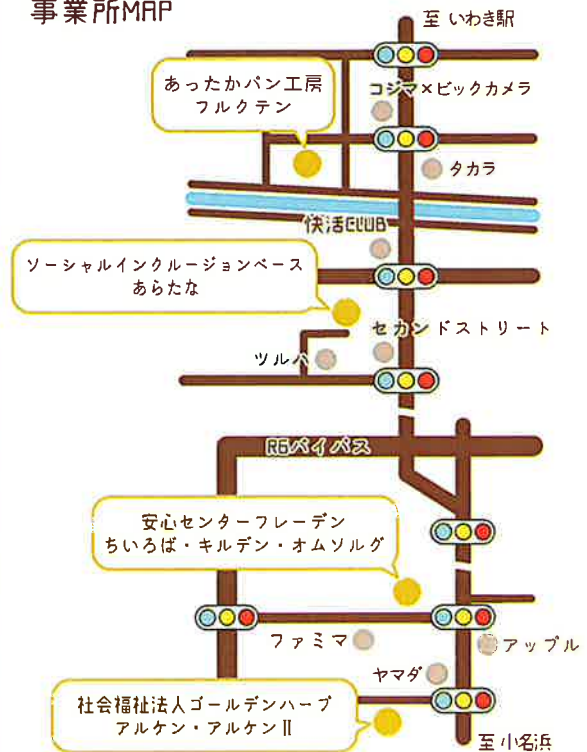
### 特定非営利活動法人から 社会福祉法人に変わりました

ゴールデンハープは平成15年3月より特定非営利活動法人として19年間にわたり福祉サービス事業を展開してまいりました。

この度、更なる事業の安定とニーズに応えられる法人になるべく令和4年1月21日で法人登記が完了し社会福祉法人となりました。

法人が変わりましてもこれまでと何ら変わることなく地域の社会資源として皆さまに信頼していただけるよう、また安心してご利用いただけるよう、より一層努力する所存ですので、これまで同様、引き続きのご支援ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 事業所MAP



編集後記

ゴールデンハープは特定非営利活動法人としてみなさんと一緒に歩んでまいりましたが、今回、社会福祉法人としてあらたな一歩を踏み出すこととなり「ねいろ」も一新。これからもゴールデンハープのきらきら輝く利用者さんたちの日常、そしてゴールデンハープの活動を知っていただけるような広報誌をお届けしたいと思っています。

地域連携委員会



発行：社会福祉法人ゴールデンハープ

編集：Hirono Computer Lab.

社会福祉法人ゴールデンハープ

〒971-8146 いわき市鹿島町御代字九反田1-1

Tel 0246-84-6262 Fax 0246-84-6261 <https://goldenharp.jp>

